

平成28（2016）年6月

「中期経営プラン」成果目標の平成27年度達成状況

1 成果のあらまし

財団は、平成24年6月に作成した「中期経営プラン」（平成24年度～平成27年度）で、「効果的な事業展開」「施設機能の向上」「人材の育成」「財政基盤の安定化」の四大方針について計10項目にわたる年度ごとの成果目標を設定した。

プラン最終年の平成27年度は、経年比較が可能な7項目のうち2項目で目標数値を上回った。単年度収支は8、686千円のプラスで、4カ年のプラン期間内では平成24年度に次いで2度目、平成22年度の財団自立化以降の6カ年では4度目の黒字決算となった。この結果、財団維持継続の指標となる当期末の正味財産額は、173、630千円で、一般財団法人移行時の24年度当初に比べ800千円(0.46%)の微増、目標達成率は、102.5%となった。

収益面では、自立化以来の柱である国の事業を4件落札した。前年度と同じ件数だが、落札総額が2倍を上回った。ドーンセンターとイコーラムの指定管理業務もプラスに作用。これらによって収益総額が前年度比で57,764千円(27.3%)伸びたことで、財団事務所移転経費などの費用増をカバーし、全体の収支が前年度のマイナスからプラスに転じた。

平成28年度からは、大阪府男女共同参画推進事業とドーンセンター指定管理業務の枠組みが大きく変わったことで、経営環境は厳しさを増す。こうした変化とプラン4カ年の実績を見極めつつ、財団の経営体質強化への的確に対応していかなければならない。

2 各成果目標と実績（評価・取組み内容）

(1) 効果的な事業展開

□受講者満足度（府民向け講座：%、「中期経営プラン」本編13p）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
目標	80.0	82.5	84.0	85.0
実績	94.4(118.0%)	87.2(105.7%)	85.0(101.2%)	93.7(102.4%)

*数値はスーパービジョン講座とフェミニストカウンセリング講座の総平均（「大変満足」＋「満足」）

*実績値のカッコ内は各上段の目標数値に対する達成率（以下同様）

[評価・取組み]

○フェミニストカウンセリング講座は、広域から医療、法律、教育関係者の多数の参加があった。

日程とプログラムを更新した成果と思われる。

○スーパービジョン講座は高い専門性によって、例年、満足度は高い。

□情報相談件数（情報ライブラリー、14p）

	H 2 4 年度	H 2 5 年度	H 2 6 年度	H 2 7 年度
目 標	6,500	6,650	6,800	7,000
実 績	5,638(86.7%)	4,486(67.5%)	3,389(49.8%)	3,932(56.2%)

[評価・取組み]

○インターネットの普及が主因と思われる相談件数の減少対策として、利用案内や所蔵図書・資料に関する照会など簡易な相談にも的確に対応して利用者のニーズを把握し、選書や展示に反映させていく必要がある。

□財団ホームページアクセス件数(17p)

	H 2 4 年度	H 2 5 年度	H 2 6 年度	H 2 7 年度
目 標	45,000	55,000	65,000	75,000
実 績	51,308(114.0%)	61,443(111.7%)	59,296(91.2%)	67,357(89.8%)

[評価・取組み]

○財団の多様な取組みをより早く、より分かりやすく発信するよう7月に全面リニューアルした。それにより前年度比で8,061件（13.6%）増えたものの、目標には届かなかった。

(2) 施設機能の向上

[ドーンセンター指定管理業務（ドーン運営共同体）]

□利用率（%、H24年度以降の合計利用率目標は小数点以下四捨五入、18p）

	H 2 3 年度	H 2 4 年度	H 2 5 年度	H 2 6 年度	H 2 7 年度
ホール（目標）	—	63.0	63.0	65.0	65.0
実 績	62.7	62.4	66.0	69.3	69.1
P. S（目標）	—	55.0	58.0	60.0	61.0
実 績	53.9	52.7	57.7	49.5	54.8
会議室等（目標）	—	57.0	60.0	61.0	62.0
実 績	56.1	56.4	56.3	55.0	56.7
合 計（目標）	—	57	60	61	62
実 績	56.3	56.5	56.8	55.3	57.2

[評価・取組み]

○ホールは、7、8月の利用落ち込みで前年度より微減した。前年度、継続利用団体の大量キャンセルがあったP.Sは、PRに努めた結果、幅広い団体の利用で利用件数が回復した。

○ドーンセンターホームページのデザインを分かりやすいように刷新した。

[イコラム指定管理業務]

□施設利用者数 (人、18p)

	H23年度	H24年度	H25年度
目 標	—	120,000	129,000
実 績	111,620	124,787(104%)	144,477(120%)

[評価・取組み]

○第2期指定管理2年目の27年度実績は、164,057人で前年度比15,434人(10.4%)増。

□市受託事業(講座、催し)・財団自主事業参加者総数 (人、18p)

	H23年度	H24年度	H25年度
目 標	—	2,430	2,550
実 績	2,310	2,750(113.2%)	2,173(85.7%)

[評価・取組み]

○27年度実績は、2,873人で前年度比89人(3.2%)増。

○27年度は新たに、公募による市民協働事業(自主)を実施し、参加者増につなげた。

(3) 人材の育成

□幹部・職員の育成 (20p)

(目標) 財団を次代へつないでいくにふさわしい幹部を育成するとともに、現行4人のプロパー職員を「中期経営プラン」期間内に増強(+α)する。

(実績) 年度末にプロパー職員1人が退職し、逆に要員減となった。

[評価・取組み]

○今後は収支見通しと業務の質、量に照らして、体力に見合った人材確保(育成)を図る。

(4) 財政基盤の安定化

□物品販売収益 (ハンドブック・海外ビデオ・DVD、単位:千円、17p)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
目 標	800	900	1,000	1,100
実 績	689(86.2%)	299(33.2%)	234(23.4%)	161(14.6%)

[評価・取組み]

○ハンドブックの売上は堅調に推移する一方で、DVD類が総じて不調だった。

○継続中の「東北女性の手仕事・物産品」販売は、一定の成果をあげた。

○物品販売は収益の柱にはなりにくいものの、物品の更新、販促強化の必要がある。

□ファンドレイジング（単位：千円、21p）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
寄附金（目標）	5,000	1,000	2,000	3,000
実績	5,030	16	213	1,017
賛助会費（目標）	800	1,100	1,400	1,700
実績	643	690	716	562
合計（目標）	5,800	2,100	3,400	4,700
実績	5,673 (97.8%)	706 (33.6%)	929 (27.3%)	1,579 (33.6%)

* H24年度に比べてH25年度以降の目標寄付金額が少ないのは、「はなみずき基金」への寄附（年額5,000千円）がH24年度で終了したことによる。

[評価・取組み]

- ファンドレイジング事業の可視化を兼ねて「はなみずき女性支援センター」を4月に設置し、寄付金額は一定伸びた。
- 賛助会員は減少傾向にあるので、そのあり方を普段から点検、改善していく必要がある。

□収支試算（単位：千円、22p）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
当期収益（目標）	200,862	157,300	158,600	159,900
実績	222,946	208,376	211,842	269,606
当期費用（目標）	200,287	159,735	160,055	160,055
実績	213,917	215,507	222,500	260,920
正味財産増減目標	575	△2,435	△1,455	155
実績	8,233	△7,201	△12,350	12,116
期末正味財産額目標	173,406	170,971	169,516	169,361
実績	181,064	173,863	161,514	173,630
	(104.4%)	(101.7%)	(95.3%)	(102.5%)

* H24年度（目標）は当初予算額

* H26年度以降の目標額はイコーラム指定管理業務の受託継続を想定

[評価・取組み]

- 国の事業落札は、前年度と同様の4件、総落札額は同2倍の94,649千円で収益全体の35.1%。
- 大阪府事業（指定管理業務を除く）の受託は、前年度比1件減の2件、受託総額は、同11.8%減の41,621千円、収益全体の15.4%。
- イコーラムの受託費は、7月からの開館日増に伴い前年度比17.1%増の84,418千円だった。